

令和元年度

事業所名： グループホーム ほっとみや 1階

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100022		
法人名	岩手県高齢者福祉生活協同組合		
事業所名	グループホーム ほっとみや 1階		
所在地	〒020-0866 盛岡市本宮6-14-12		
自己評価作成日	年月日	評価結果市町村受理日	令和2年2月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・夏祭り、芋の子会、敬老会、忘年会など、各行事にご家族、地域の方々を呼び、利用者と一緒に楽しい時間を過ごせるよう支援している。 ・近隣住民とともに避難訓練をするなど、地域との交流がある。 ・身体拘束をしない取り組みにも力を入れている。 ・利用者との信頼関係を大切にし、一人ひとりが自由に生活できる支援をしている。 ・レクリエーションの提供が充実している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhw.go.jp/03/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan:true&JiyosyoCd=0390100022-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

都市開発振興住宅地内の一角に瀟洒な2階建て民家風家屋の2ユニットで運営し、近隣には病院やショッピングセンター、公園もある暮らしやすい環境に立地している。理念に【「和・輪・話」喜び、悲しみを共にし、助け合いながら笑いのある生活】を掲げ、職員・利用者共に、ほっ！とできる家を実践している。町内会に加入し運営推進委員の協力も得て地域活動に積極的に参加し、ホームの夏祭りや敬老会等でも地域住民との交流が行われ定着している。二階への登降階段利用も、気配りで安全に配慮しながら利用者の行動を拘束しないを共有している。当ホームは入居者の生涯安住の家を目指して、終の棲家として希望する方には、かかりつけ医や訪問診療医の協力の下に終末期利用者に寄り添い開設以来多くの利用者の看取りが行われ、利用者・家族の安寧と安心に繋げ前進している事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和元年12月20日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

令和元年度

事業所名：グループホーム ほっとみや 1階

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内の見やすいところに掲示している。また、ミーティングのレジュメに毎回記載し、意識共有できている。	理念は各ユニットのリビングに掲示確認しながら、利用者の笑顔や来訪者の状況等と照らし合わせて、ミーティングや定例会議で話し合いながら振り返りをしている。苦しみ、葛藤を抱えている方には、人生の中で一番輝いていた年代を思い出させる話題を提供し、心のしこりを和らげるように努め「共に喜び共に悲しみ助け合い」の理念に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	地域の夏祭りに参加したり、月に一度の絵本の読み聞かせを依頼している。避難訓練でも地域の方々に参加を呼び掛け、意見を頂いている。	町内会に加入し、回覧板(情報)もまわり地域の行事にも参加している。町内の夏祭りに今年は16名が参加し「くじ引き」や触れ合いを楽しみ、ホームの夏祭りでは歌や踊りのボランティアも来訪し家族や近所の方々と交流し楽しんでいる。絵本の読み聞かせボランティアの定期訪問、中学生の福祉体験、支援学校生徒の受入れ交流も行なわれている。地域の老人クラブ活動にリハビリ体操の指導者として職員を派遣している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に運営推進会議に参加して頂いたり、施設の各行事にお招きし、理解を深めようとしている。 職員不足で広報で募集したところ、一名の方に職員として働いて頂いている。買い物ボランティアは通年継続している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、地域で初めて開催される夏祭りに声をかけて頂き、14名で参加するなどして交流を深めている。また、避難訓練で地域の方にも参加を呼び掛け、御意見を頂いた。各居室のネームプレート裏に「避難済み」と表示し、訓練に向けた見直しをした。	2地区の各行政区長や民生委員、家族の代表者を委員に依頼し隔月に開催している。時には敬老会と併せて利用者の声や雰囲気触れ具体的提言をいただいている。会議では地域の行事や情報を戴き、夏祭りに参加したりホームの状況を報告しながら防災訓練への参加も得て、感想・意見を戴き運営に活かしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議と敬老会を抱き合わせし、実際に市役所の職員にも参加した頂いた。 新しい取り組みについても相談し、アドバイスを頂いている。	担当職員は運営推進会議の委員として会議に参加している。ホーム職員も制度改正の説明会や研修会に参加して話しやすい関係にある。入居者の実情に応じ制度の利用について相談し生活保護受給や成年後見制度の活用等助言を得ている。今後地域相談室の開設を計画しており更に連携を強化したいと考えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員が身体拘束に関する研修を受け、情報共有している。 現在身体拘束はしていない。 玄関の施錠は夜間のみしている。	身体拘束廃止委員会を3ヶ月事に開催し適正化について研修や会議で学び再確認しながら拘束のない支援に努めている。2階への登降階段の利用は見守り付添い支援で行動制限をしないように共有している。ヒヤリハットには原因を究明し未然防止に努めている。3名の転倒不安のある方は夜間のみ離床センサーを補助として利用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止について学ぶ機会を設けている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者は三名ほどいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時や変更時は理解して頂くまで丁寧に説明し、納得の上ご利用頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	受診でお迎えに来た際や面会時にご家族から要望等をお聞きし、可能な限り対応するようにしている。	事業所の情報紙「和・笑・輪」通信を家族や後見人に送付しており、行事や面会来所時には感想も含め要望意見を聴くように努めている。熱中症対策にエアコンを設置してほしいとの要望があり取りいれている。利用者の「お酒所望」のつぶやきにノンアルコールビールで応えることもある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員は会議で意見を出し、管理者は本部に伝えている。	管理者は毎日のミーティングや毎月の定例会議で職員の要望・意見を聴いている。事業所内で解決困難な課題は本部の福祉部会に諮っており、今年度は職員の特定処遇改善の充実に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与水準の見直しを行なった。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修への参加を促している。参加した職員は各施設に戻り、情報共有に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会の定例会に出席している。今年度は、職員不足により交流できていない。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人から要望を聞き、受け止めている。家族には様子を伝え、情報交換を行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に、家族に日常の様子を伝え、情報交換を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	不安を汲み取りながらコミュニケーションを図り、寄り添った支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりの能力に合わせて、一緒にできることを探し、役割を持って生活できるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族に情報を提供し、家族とともに利用者を支えていく支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	家族や友人との面会や外出が自由にできる。	馴染みの病院受診、趣味の仲間や友人との付き合い等が継続できるように支援している。詩吟や手芸サークルに参加している方や毎年のいとこ会に出かけている利用者もいる。入居後にボランティアの方々との新たな馴染みもできている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の中に職員が入り、会話やコミュニケーションが取れるよう支援している。 レクリエーションや作品作りなど、皆が関わりながらできる支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今はそのような方はいない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションから、思いや希望を受け止めるようにしている。	定期的なカンファレンスにより、利用者のこれまでの生活に寄り添った対応に心がけている。利用者とは居室や落ちついた環境で時には入浴時の開放的な場でアイコンタクトを取りながら話しかけている。入居後、不穏・不機嫌落ちつかない利用者の心情は郷里への募る思いであることを知り、職員が話し合い話題を共有して支援を継続し精神安定に繋げることができている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、以前担当していたケアマネジャーや入院・入所していた施設から情報を得て把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の一人一人の様子を観察し、記録に残している。 カンファレンスにて現状について話し合い、把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の思いや希望、家族との情報交換を行い、カンファレンスで過去の振り返りをし、職員間での意見を出し合い現状把握しながら作成している。	モニタリング、家族の要望意見、事業所の申し送りや日誌を参考にカンファレンスで話し合い介護計画を作成している。3ヶ月毎の見直しとしているが介護度や状態の変化に応じ随時見直しもしている。趣味や掃除、食卓の配膳等日常の役割、食事内容の変化などきめ細やかなプランが作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付いた会話内容、行動、健康状態を記録して情報共有し、カンファレンス時に話し合い実践、振り返り、見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人の体調に合わせた食事時間、家族や利用者の負担にならないよう訪問理美容、訪問歯科、往診を取り入れている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、絵本読み聞かせなどのボランティアの方々に来て頂いている。また、中学生の体験学習、支援学校の生徒の実習生など受け入れている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	それぞれのかかりつけ医や訪問診療と情報を共有し、適切な医療を受けられるよう支援している。	かかりつけ医受診は家族同伴7名で他は月1回の訪問診療を利用している。精神科や皮膚科等他科の受診も家族同伴は同様であり、他利用者の家族対応困難時は職員が同行することもある。訪問歯科受診の利用者は3名、訪問看護ステーションと契約し週1回の利用者の健康管理を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の訪問看護、特別指示書による手厚い看護、特変時に対応の方法を教えて頂いたり、緊急時の訪問も対応して頂き、利用者が安心できる支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院と情報共有し、早期退院に向けた取り組みをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族と十分に話し合い、思いや要望を受け止め、医療関係者との情報交換を行い協力を得て終末期のケアに取り組んでいる。今年度の看取りはなし。	かかりつけ医や訪問診療・訪問看護等医療との連携体制は確立しており、希望する方の終の棲家として開設以来多く方の看取りを経験している。入居時に意向を話し合い確認し、状態の変化に応じて再度意向と方針を医療や家族・関係者と相談しながら適切に対応している。職員は研修や実践を通じて学びを深め家族の信頼に応じており、現在も3名の看取り介護に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生時は訪問看護に指示を受けている。 今年度の応急手当の講習は3月に実施予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練と消火体験を行なっている。今回は水害を想定した訓練を、地域の人とともに実施した。	防災避難訓練は毎年2回以上行なっている。地域の区長や民生委員を非常時の協力者として依頼し連絡先に登録、訓練にも参加し助言を載している。2階外付け非常階段利用時の安全な避難方法・手段を検討している。ハザードマップ対象地域外にあるが今年度は水害想定での垂直避難訓練を実施した、食料や日常必需品は1週間程度備蓄している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりに合った声掛け、コミュニケーションを行なうように心掛け、プライド、プライバシーを損なわないように配慮している。	利用者への声かけは同じ目の高さで行う、言葉遣いは丁寧に、自尊心を傷つけないようにを共有している。床のモップ作業時は立位困難な方には椅子に腰かけた状態で手伝っていただくなど状態や能力に合わせた支援に配慮している。入浴排泄介助時は羞恥心を損なわないように心配りをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	思いや希望を、表情や反応を把握しながら自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のペースに合わせ、その時々のおいに沿ってできる範囲で支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性や好みを大切にしながら、訪問理美容の利用や、季節に合わせた服装ができるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節や行事、誕生日等に合わせた食事や盛り付けを意識している。テーブル拭きや茶碗拭きなど、利用者と一緒にこなしている。	献立づくりや調理は職員が交代で行っている。彼岸団子、雛饅頭、芋の子会など季節や四季折々の行事食を取入れている。一人ひとりの誕生日には好みやリクエストに応え寿司やラーメンも準備し、手づくりケーキで楽しく賑やかな食卓を演出している。配膳・下膳、食器拭きなど職員と共にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューは、バラエティに富んでいる。水分が足りないような時は声掛けし、飲んでいただく。食事形態は刻む、ミキサー、とろみ剤の使用など個別で対応している。中にはミキサー食から普通食へと改善された利用者もいる。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科定期検診を行なったり、訪問歯科を利用している方もいる。朝昼夕、歯磨きを行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄に合わせて声掛け、誘導している。それぞれの習慣、できることを把握し、可能な限りトイレで排泄できるよう支援している。	利用者の生活リズムを把握しトイレでの排泄を基本に声掛け誘導支援をしている。9名がリハパン等排泄補助用品を利用しながら自立に近く、寝たきりでオムツを利用している方が3名いる。夜間のポータブルトイレは1名の方が利用している。繰り返しの誘導支援により失敗の回数が少なくなってきた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操、行進、掃除などで身体を動かし、食事(食物繊維)、水分で便秘予防に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一日の時間で決まった時間帯になってしまうが、一耐一で対応し、介助、会話でリラックスして楽しい時間になるように心掛けている。	風呂は毎日準備している。入浴は午後の時間帯で週2~3回を目途に入浴支援をしている。時々拒否する方には清潔保持も勘案し声掛けのタイミングを工夫しながら同意のものと入浴支援に努めている。職員との楽しいな会話を通じた支援を心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者それぞれの好きな時間に昼寝や就寝して頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員が薬の管理をし、内服の支援をしている。薬情報はフファイルに綴り、把握している。薬剤師の訪問で不明点の確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事やドライブして外出を楽しんでいる。掃除や洗濯など、自分でできることは行っていた。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節に合わせたドライブをしている。 家族との外出もある。 職員不足のため、日々の散歩の機会は減っている。	季節ごとに小岩井農場の花見や矢巾のひまわり畑の見物にドライブがてら出かけている。日常的にはウッドデッキやベランダでの日光浴、玄関わきの金魚鉢への餌やり、近くの公園や東屋まで散歩をしているが、散歩の頻度は少なくなっている。外食や買い物に家族と出かけている利用者もいる。	利用者の日常生活における気分転換やストレス発散には、こまめに戸外の風や陽の光を五感で浴びる刺激がリハビリ効果と活力に繋がるものと思われず。利用者の状態を勘案しながら、より積極的かつ定期的な散歩を日課に組み込むなど戸外に出かける工夫を更に期待します。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できている方については、自由に持っていたにしている。その方以外は、家族が管理している。 欲しいものがある際、職員が同行して立替で購入することもある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	利用者からの希望があれば、自由に電話することができる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	温度調節に気を付けている。 季節の飾りつけや花を飾り、季節感を取り入れている。	共用スペースには、食卓テーブル、椅子、ソファなどが配置され天窓から自然光を取り入れた明るい環境となっている。壁面には利用者と共に作成した大きなカレンダーや貼り絵の装飾などが飾られ、安全でホッとできる過ごしやすい環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビが観たいとき、話しがしたいとき、ゲームに参加するときなど、自由に席を選び利用者同士でコミュニケーションを取る事ができる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物や写真など、使い慣れた物を居室に置き、居心地良く過ごせるように支援している。	各居室には、ベッド、クローゼット、蓄熱式暖房機、窓にはカーテンが備えつけられている。夫々に、テレビや衣装ケース、家族写真などが整然と置かれ、明るく落ちつける生活空間になっている。親族の位牌を持参し礼拝している方もいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に名札があり、迷いを減らしている。見守りにより、迷っている時はすぐに誘導し、不安にならず行動できるようにしている。 トイレと居室のドアが同じで慣れない方は迷いやすいため、特に注意して見守りしている。		